



令和3年度 大館市木材利用推進会議 第1回部会 書面会議結果



令和4年3月



TM

○書面会議内容について

- 1 内 容 「地域内エコシステム」モデル構築事業における
「木質バイオマス利用施設導入基準の設定」について
- 2 対象者 大館市木材利用推進会議 部会委員（12名）
- 3 協議事項 ①「地域内エコシステム」モデル構築事業 全般について
②「木質バイオマス利用施設導入基準の設定」について
③その他
- 4 回答期間 令和4年3月16日 ～ 3月30日

○部会委員名簿

区分	所属 職名	氏名
部会長	林政課 課長補佐	小棚木 信晴
委員	総務課 課長補佐	佐々木 みゆき
委員	市民課 主幹	桂田 中
委員	環境課 課長補佐	高橋 勉
委員	福祉課 課長補佐	石井 文行
委員	子ども課 課長補佐	畠沢 依子
委員	農政課 課長補佐	渡辺 孝義
委員	移住交流課 課長補佐	菅原 純
委員	土木課 課長補佐	畠澤 淳一
委員	都市計画課 課長補佐	嘉成 秀裕
委員	消防総務課 課長補佐	若松 清勇
委員	教育総務課 課長補佐	石田 誠樹
委員	生涯学習課 課長補佐	糸屋 みさえ

協議事項① 「地域内エコシステム」モデル構築事業 全般について

部会委員の意見

- ゼロカーボンシティの実現に向けた本市の重要なプロジェクトでもあり、引き続き、より多くの市職員がこの事業を理解し、知識を深めていけるよう取り組んでほしいと思います。
- 問題はないと考える。
- ゼロカーボンシティの実現に向けて、公共施設への木質バイオマスエネルギーの導入は重要であること、導入に向けての課題解決のためにはモデル構築事業が必要であることが見て取れた。
- 多様な主体と連携しバイオマス利用の仕組みを地域で協力して作り上げていくことで人づくりにもなり、ひいては利益還元にも繋がるとのことから、まずはバイオマス利用の意識を向上させていくことが重要であると感じる。これからも継続的に成果報告をしていただき、また課題等を掲げていくことで本市における木材利用の発展、ゼロカーボンシティにも繋がっていくと思う。
- 木質バイオマス利用は市公共施設のボイラー等の熱源利用だが、今後、具体的に導入基準を策定し特定施設の事業化の検討を進める上で、積極的に導入を進めている他自治体の導入事例をまず検証し、メリットや課題を整理し、情報共有すべきと考えます。熱源単価が比較的安い木質チップであっても、ボイラー製品の能力や性能に一長一短があり、導入を進める上で必ずしも施設の利用状況にマッチするとは限らないため、ボイラー製品に関して、これらマッチングに係る情報収集も必要であると考えます。
- ゼロカーボンシティへの市の取組みを木材関係以外の企業の理解を得る取組みが必要だと思う。また、ストーブから見える火の温かさを感じることは癒しにもつながると思うので、小規模施設や家庭で経済的負担が軽くなるようなストーブやチップの性能が向上すると思う。
- 特になし。(5名)

協議事項② 「木質バイオマス利用施設導入基準の設定」について

部会委員の意見

- 環境面や経済面、コスト面での効果は重要ですが、煙や匂い対策などの周辺住民への影響も、最終的に重要になると思います。導入基準におけるウェイトも大きくしたほうがいいと思います。
- 問題はないと考える。導入基準がないと新斎場建設時に木質バイオマスボイラーを導入するかどうかの判断に迷う。
- 周辺住民の理解を得ることは非常にハードルが高いと思われる。これにより、市街地の施設への導入はほぼ困難で、郊外の施設のみが検討の対象となるのではないか。
- 木質バイオマスを利用したボイラーの設置については、コスト、環境面は重要だが設備を管理する職員（事業者）体制の整備や教育も必要となるとと思われる。日常的な管理負担も考慮し画一的にならない基準を望む。
- わかりやすく木質バイオマスエネルギー設備の普及・啓発によりゼロカーボンシティの実現を推進するものとみとめられる。
- 環境面と経済面のバランスシートのようなものがあれば分かりやすいのでは。
- 木質バイオマス燃焼機器を導入する際には、労働安全衛生法や火災予防条例、その他の規制が関わってくるため、関係法規をまとめる必要がある。
- 概ねよいと思います。
- 適正だと思う。
- 特になし。（3名）

協議事項③ その他

部会委員の意見

○地元から斎場から出る煙（水蒸気含む）が見えないようにとされている。令和3年10月22日（金）開催の「地域内エコシステム」モデル構築事業 事業懇談会でも質問したが、木質バイオマスボイラーからは煙が出るため、導入するとすれば、いかに地域住民に説明するか課題が残る。

○ペレットの製造に関して、安価で省エネが検討出来れば普及推進が容易となる可能性があるように感じられます。